

聴こえる人も聴こえない人も共に楽しめる

～字幕付プラネタリウム～

根本しおみ(川口市立科学館)

聴覚障害を持つ方にプラネタリウムを楽しんでいただくためには、字幕や手話通訳のようなサポートが必要となる。しかし、聴覚障害者だけを集めて特別な投影をするのではなく、字幕が付くことによって、聴こえる人にとってもよりわかりやすく、楽しめるプラネタリウムになれば、障害がある人も無い人も同時に同じ物を楽しむことができる。このような字幕付プラネタリウムの実現に向けて実践してきたことを報告する。

1. 実践対象

聴覚障害「も」楽しめる字幕付、ということで、全ての人が対象と考えている。

2. 実践可能な場所、必要な道具や準備

プラネタリウムで実践しているが、聴覚障害者も混じっている天文講座などでもアレンジ可能である。ボランティアとして個人レベルで行えるし、パソコンとプロジェクターがあればよい。



画像1 星空解説のときのドーム内の様子。

3.字幕付「キッズアワー」の実践例

当館では、日曜日の午前中に子供向けのプラネタリウム「キッズアワー」を投影している。投影者のフル生解説で行う、子供にもわかりやすい番組である。子供だけではなく、子供を連れてくる大人にも楽しめるものであることと、内容が複雑ではないため、字幕を付けるにも適しているだろう、ということでキッズアワー（七夕とクリスマス）を字幕付投影にしてみることにした。字幕の作成、投影共に投影者自身が行う。投影者があらかじめ自分が話すことをパワーポイントの字幕にしておき、投影中は自分が話すスピードにあわせて字幕を送り出していく。以下に、星空解説、歌、物語をどのように字幕付にしているか説明する。

3.1 星空解説

プラネタリウムの星空の上に、天文シュミレーションソフト「ステラナビゲーター」で作成した当日の西、南、東の空の画面をプロジェクターから投影する。「ステラナビゲーター」の画面で星や星座の探し方を教えて、プラネタリウムの星空で答え合わせをしていく。（画像1）

3.2 歌

「たなばたさま」や「ジングルベル」に限らず、日の入り、日の出でもキッズアワーに歌は欠かせない。歌詞の字幕を出すだけではなく、パワーポイントのアニメーション機能を使ってカラオケのように歌っているところの文字の色を変える。聴こえる人は一緒に歌うことができるし、聴こえない人にも何が行われているのかわかる。歌詞がない間奏の部分には「間奏」と字幕を出している。（画像2）



画像2 「サンタさんと宇宙旅行をしながら歌を歌いましょう。」

3.3 物語

「たなばた」や「クリスマスの始まり」などの絵のある物語に、一度に2, 3行程度の字幕を出す。絵本のように読み進めていく。字幕は、大人には漢字を使った方が意味がわかりやすいので、キッズアワーでもひらがなばかりにはせず、適宜漢字を使って読み仮名をふる。(画像3)



画像3 「たなばた」

3.4 満天の星空

プラネタリウムでぜひ楽しんでいただきたいことは、「満天の星空」である。しかし、天の川まで見えるような星空を見せたい場合は、字幕の明かりがじゃまになってしまう。このときは、事前に「満天の星空を楽しんでもらうために、しばらくこの字幕を消します。」と字幕を出している。

4. 実践上役立つヒントや留意点

- 字幕が付かない場面があるときには、「間奏」とか、「満天の星空を楽しんでもらうために、しばらくこの字幕を消します。」のように、なぜ字幕が無いか説明する字幕を出すとうい。
- 聴こえる人も、画像と一緒に字幕を出すことによって、字幕があることに対する違和感が無くなるようである。歌の時も、「〇〇の画像を見ながら、歌を歌いましょう。」のように、歌の雰囲気合った画像と一緒にだと良い。
- 最初の挨拶だけでも手話ですると良い。

5. 実践例の評価

アンケートの結果、聴こえない人は「今まで、プラネタリウムに行っても何をやっているのかわか

らなかったけど、今日は字幕がついていてよくわかった。」聴こえる人も、「目と耳で確認できるから、字幕があってわかりやすかった。」とどちらにも好評で、目指しているところに近づいていると感じた。ただし、聴覚障害者の来場は来ても2、3人、と非常に少ないことが悩みである。これからは、プラネタリウムで待つだけではなく、聾学校などに天文講座を出前して、星に興味を持つきっかけをより積極的に作りたい。

6. 一般市民への天文学教育普及活動へのフィードバック

『字幕があってわかりやすい』と喜んでくれたのは、何も聴覚障害者だけではなく、子供や耳が聞こえにくくなったお年寄りにも『普通のプラネタリウムより良かった』という感想をいただいた。聴こえる人にも、聴こえない人にも楽しめるプラネタリウムは、「究極にわかりやすいプラネタリウムの解説」になっているのかもしれない。

7. 「聴覚障害」について

字幕付プラネタリウムを担当するようになってから、手話を習いに行っている。手話サークルなどで聾者と交流するうちに、やっと「聴覚障害」を理解できるようになった。聴覚障害は、単に音が聞こえないということだけではなく、日本にいても外国にいても、周りの人とコミュニケーションができないことが不便な障害である。また、聾者にとっての母国語は手話であり、読み書きする日本語は外国語のようなものである。必然的に、日本語の文章を読んだり書いたりすることは、手話で表現することに比べたら苦手である。もし、聴覚障害者向けに何か企画することがあり、聴覚障害者に感想を聞きたかったら、アンケートに記入してもらうのではなく、手話で表現してもらわないと相手が本当に言いたいことが伝わってこない。